

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成25年8月12日
【四半期会計期間】	第52期第1四半期(自平成25年4月1日至平成25年6月30日)
【会社名】	株式会社ダスキン
【英訳名】	DUSKIN CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 山村輝治
【本店の所在の場所】	大阪府吹田市豊津町1番33号
【電話番号】	06(6387)3411(大代表)
【事務連絡者氏名】	常務取締役 鶴見明久
【最寄りの連絡場所】	大阪府吹田市豊津町1番33号
【電話番号】	06(6387)3411(大代表)
【事務連絡者氏名】	常務取締役 鶴見明久
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第51期 第1四半期連結 累計期間	第52期 第1四半期連結 累計期間	第51期
会計期間	自平成24年4月1日 至平成24年6月30日	自平成25年4月1日 至平成25年6月30日	自平成24年4月1日 至平成25年3月31日
売上高(百万円)	40,635	41,818	168,163
経常利益(百万円)	3,187	2,046	11,027
四半期(当期)純利益(百万円)	948	1,150	6,092
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	1,189	1,626	9,095
純資産額(百万円)	148,208	152,254	152,811
総資産額(百万円)	193,121	197,935	202,375
1株当たり四半期(当期)純利益 金額(円)	14.75	18.27	95.15
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額(円)			
自己資本比率(%)	76.3	76.4	75.1

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式がないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。なお、ダスキン共益株式会社は、当第1四半期連結会計期間においてダスキン保険サービス株式会社を吸収合併いたしました。また、エムディフード株式会社を、当第1四半期連結会計期間において設立いたしました。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び当社の関係会社）が判断したものであります。

(1)業績の状況

当第1四半期連結累計期間（平成25年4月1日～平成25年6月30日）の我が国経済は、政府の金融緩和策を背景に円安株高基調で推移する等、景況感には改善の兆しが見られました。しかしながら、電気料金の値上げ、原材料価格の上昇等の不安要因を抱える中で為替・株式相場は乱高下する等、本格的な上昇局面に入ったと言え難い状況で推移しました。

このような環境の中、当社は当期創業50周年を迎えました。期初より、これまでの感謝を込めた謝恩活動をフランチャイズ加盟店と一丸となって展開すると共に、“仕組みの改革”を推し進めており、一人でも多くの方に、当社の商品・サービスをご利用いただくべく、中期経営方針の基本方針に沿った取り組みを継続しました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の業績につきましては、連結売上高は418億18百万円（前年同期比2.9%増）となりました。一方、連結営業利益は15億25百万円（前年同期比39.6%減）となり、各セグメントが減益となりました。それに伴い、連結経常利益も20億46百万円（前年同期比35.8%減）と減益となりましたが、連結四半期純利益は、前年同期にあった投資有価証券評価損の計上が無くなったことを主因として増益となり、11億500百万円（前年同期比21.3%増）となりました。

<セグメント毎の状況>

クリーンケアグループ

清掃関連用具のレンタルや清掃美化関連のサービスを手掛けるクリーン・ケア事業は、家庭市場においては、当社の商品をその場で実際に体感していただける催しを全国各地のショッピングセンター等で、「オタメシ祭り」と銘打って多数開催し、気軽に試用していただくお客様を増加させることに注力しました。従来商品より高機能でスタイリッシュなフロアモップ「LaLa」、ハンディモップ「shushu」に、集めたゴミやモップに着いたホコリを吸い取る置き型式掃除機「ダストクリーナー」を組み合わせた“お手軽本格おそうじ”を訴求し、それらの商品のレンタル売上は順調に増加しましたが、それ以外のモップ商品の売上が減少したことから、家庭用ダストコントロール商品の売上は前年同期を下回る結果となりました。しかしながら、ハウスクリーニング等の家庭向け役務提供サービスは、エアコンクリーニングサービス、家事おてつだいサービス等が順調に推移し前年同期を上回った結果、家庭市場の売上は前年同期を上回りました。

一方、事業所市場は引き続き厳しい状況が続いており、清掃用具レンタルに清掃サービスや害虫駆除、衛生管理サービス等を加えたオーダーメイドの総合提案を繰り返し行う地道な営業活動に引き続き注力しましたが、ダストコントロール商品の売上が減少したことを主因に、前年同期の売上を下回る結果となりました。床の清掃業務等の事業所向け役務提供サービスの売上は、清掃管理サービスは減少したものの、エアコンクリーニングサービスや害虫駆除サービスは増加し前年同期を上回りました。

以上の結果、その他の事業を加えたクリーンケアグループ全体の売上高は273億35百万円（前年同期比0.8%増）となりました。一方、創業50周年謝恩活動により販売促進費用が増加し、営業利益は33億5百万円（前年同期比6.2%減）となりました。

フードグループ

ミスタードーナツ事業は、ブランド価値向上を目指し、おいしさを追求する取り組みとして、今まで以上にドーナツの風味を高めるフライングオイルを開発し、4月に導入しました。同時に、ドーナツをコーティングする「グレーズ（砂糖蜜）」をリニューアルすると共に、「オールドファッション」等の人気ドーナツ生地を、原材料の選定、配合の分量等細部に亘って改良し、「TRY! NEW MISDO!」と題したプロモーションを展開しました。その他、今年1月に大好評を得た「ポン・デ・リング生」の新商品やカルピス株式会社とのコラボレーション商品「カルピス®ドーナツシリーズ」等、楽しさと話題性のある商品展開と人気タレントを使った宣伝広告に注力した結果、前年同期の売上を上回りました。

以上に、前期の第2四半期に連結子会社化した蜂屋乳業株式会社の当第1四半期を加えたフードグループ全体の売上高は117億47百万円（前年同期比7.9%増）となりました。一方利益面については、「TRY! NEW MISDO!」の宣伝広告費用が増加したことで、2億45百万円の営業損失（前年同期は営業利益4億31百万円）となりました。

その他

海外のミスタードーナツ事業は、タイ、フィリピン、マレーシアは好調に推移したものの、台湾、中国（上海）、韓国の3地域においては、不採算店をクローズし店舗数が減少したことを主因として、前年同期の売上を下回りました。その結果、売上合計では微減となりました。

一方、海外のクリーン・ケア事業は、展開している台湾、中国（上海）、韓国の3カ国すべてで前年同期の売上を上回りました。台湾は、役務提供サービスが順調に伸長しており、韓国ではダストコントロール家庭市場のお客様数が順調に増加しました。

以上の結果、リース事業等を営むダスキン共益株式会社等の関係会社を加えた、その他全体の売上高は27億35百万円（前年同期比3.9%増）、営業利益は1億53百万円（前年同期比17.3%減）となりました。

なお、上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(3) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、2億20百万円であります。

なお、当第1四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(4) 主要な設備

当第1四半期連結累計期間において、新たに確定した主要な設備の大規模改修計画は次のとおりであります。
提出会社

事業所名	所在地	セグメントの名称	設備の内容	投資予定金額（百万円）		資金調達方法	着手及び完了予定年月		完成後の増加能力
				総額	既支払額		着手	完了	
ミスタードーナツカレッジ	大阪府吹田市	フードグループ	教育研修設備	610	-	自己資金	平成25年8月	平成26年7月	(注) 1

(注) 1. 販売又は生産能力に重要な影響はありません。

2. 上記の金額には消費税等は含まれておりません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	200,000,000
計	200,000,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末現在 発行数(株) (平成25年6月30日)	提出日現在発行数(株) (平成25年8月12日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	64,994,823	64,994,823	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数 100株
計	64,994,823	64,994,823		

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成25年4月1日～ 平成25年6月30日		64,994,823		11,352		1,090

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7)【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成25年3月31日）に基づく株主名簿による記載を行っております。

【発行済株式】

平成25年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 1,913,800		
完全議決権株式(その他)	普通株式 63,001,000	630,010	
単元未満株式	普通株式 80,023		
発行済株式総数	64,994,823		
総株主の議決権		630,010	

【自己株式等】

平成25年3月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数(株)	他人名義 所有株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社ダスキン	大阪府吹田市豊津 町1番33号	1,913,800		1,913,800	2.94
計		1,913,800		1,913,800	2.94

(注)平成25年6月30日現在で保有している自己株式は、2,414,369株(発行済株式総数の3.71%)であります。

2【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当四半期累計期間において、役員の異動はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（平成25年4月1日から平成25年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	19,255	20,426
受取手形及び売掛金	10,366	10,576
リース投資資産	1,782	1,750
有価証券	13,998	7,999
商品及び製品	6,203	7,014
仕掛品	175	226
原材料及び貯蔵品	2,133	2,032
繰延税金資産	2,609	2,111
その他	2,684	3,049
貸倒引当金	46	47
流動資産合計	59,162	55,140
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	42,138	42,224
減価償却累計額	24,262	24,520
建物及び構築物(純額)	17,876	17,703
機械装置及び運搬具	23,624	23,749
減価償却累計額	17,247	17,463
機械装置及び運搬具(純額)	6,376	6,286
土地	24,231	24,231
建設仮勘定	279	554
その他	13,683	13,065
減価償却累計額	9,328	9,103
その他(純額)	4,355	3,962
有形固定資産合計	53,120	52,738
無形固定資産		
のれん	688	715
その他	7,788	7,524
無形固定資産合計	8,477	8,240
投資その他の資産		
投資有価証券	67,684	68,270
長期貸付金	108	63
繰延税金資産	5,147	4,972
差入保証金	7,498	7,446
その他	1,385	1,265
貸倒引当金	209	203
投資その他の資産合計	81,614	81,815
固定資産合計	143,212	142,794
資産合計	202,375	197,935

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	6,975	6,536
1年内返済予定の長期借入金	99	99
未払法人税等	2,066	315
賞与引当金	3,362	1,590
ポイント引当金	1,292	1,314
資産除去債務	2	6
未払金	6,229	5,960
レンタル品預り保証金	10,326	10,219
その他	4,443	4,636
流動負債合計	34,798	30,681
固定負債		
長期借入金	89	63
退職給付引当金	13,284	13,559
債務保証損失引当金	11	6
資産除去債務	592	588
長期預り保証金	748	744
長期未払金	37	37
その他	0	0
固定負債合計	14,764	15,000
負債合計	49,563	45,681
純資産の部		
株主資本		
資本金	11,352	11,352
資本剰余金	10,841	10,841
利益剰余金	132,222	132,110
自己株式	3,092	3,998
株主資本合計	151,323	150,305
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	943	1,343
繰延ヘッジ損益	3	-
為替換算調整勘定	371	344
その他の包括利益累計額合計	568	998
少数株主持分	919	949
純資産合計	152,811	152,254
負債純資産合計	202,375	197,935

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
売上高	40,635	41,818
売上原価	22,537	23,442
売上総利益	18,098	18,376
販売費及び一般管理費	15,571	16,851
営業利益	2,526	1,525
営業外収益		
受取利息	233	244
受取配当金	134	128
設備賃貸料	35	30
受取手数料	55	47
持分法による投資利益	12	-
営業権譲渡益	131	11
雑収入	116	124
営業外収益合計	719	586
営業外費用		
支払利息	1	0
持分法による投資損失	-	32
為替差損	17	-
支払補償費	4	15
雑損失	34	16
営業外費用合計	58	65
経常利益	3,187	2,046
特別利益		
固定資産売却益	5	1
投資有価証券売却益	55	-
その他	8	1
特別利益合計	69	2
特別損失		
固定資産売却損	7	2
固定資産廃棄損	40	13
投資有価証券評価損	1,019	-
その他	4	0
特別損失合計	1,072	15
税金等調整前四半期純利益	2,185	2,033
法人税等	1,208	854
少数株主損益調整前四半期純利益	976	1,178
少数株主利益	28	27
四半期純利益	948	1,150

【四半期連結包括利益計算書】
【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	976	1,178
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	120	397
繰延ヘッジ損益	6	0
為替換算調整勘定	50	44
持分法適用会社に対する持分相当額	48	7
その他の包括利益合計	213	448
四半期包括利益	1,189	1,626
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,141	1,580
少数株主に係る四半期包括利益	48	45

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
<p>連結の範囲の重要な変更</p> <p>連結子会社であったダスキン保険サービス株式会社は、当第1四半期連結会計期間においてダスキン共益株式会社に吸収合併されたため、連結の範囲から除外しております。</p> <p>エムディフード株式会社を、当第1四半期連結会計期間において新たに設立したため、連結の範囲に含めておりません。</p>

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
税金費用の計算	<p>連結子会社の税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。</p>

(四半期連結貸借対照表関係)

偶発債務

連結会社以外の会社の金融機関からの借入に対して、債務保証又は経営指導念書の差入れを行っております。

(債務保証)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)		当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)	
ミスタードーナツ加盟店 (事業者融資保証)			ミスタードーナツ加盟店 (事業者融資保証)	
(株)安住商会		25百万円	(株)安住商会	23百万円
(株)松屋		23	(株)松屋	22
アルファフーズ(株)		22	アルファフーズ(株)	21
その他	20件	57	その他	18件 35
協力工場 (協栄工場融資保証)			協力工場 (協栄工場融資保証)	
(株)アイエムコーポレーション		62	(株)アイエムコーポレーション	59
(株)アズミ		21	(株)アズミ	20
太洋ドライクリーニング(株)		4	(株)太洋	3
(株)北越ダスキン協栄工場		3	(株)北越ダスキン協栄工場	3
当社従業員 (厚生貸付保証)	65件	67	当社従業員 (厚生貸付保証)	57件 62
合計		287	合計	250

(経営指導念書)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)		当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)	
統一多拿滋(上海)食品有限公司		71百万円	統一多拿滋(上海)食品有限公司	95百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日)
減価償却費	1,697百万円	1,759百万円
のれんの償却額	27	65

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年6月22日 定時株主総会	普通株式	2,571	40	平成24年3月31日	平成24年6月25日	利益剰余金

当第1四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年6月21日 定時株主総会	普通株式	1,261	20	平成25年3月31日	平成25年6月24日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	クリーンケア グループ	フード グループ	その他 (注1)	計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
売上高						
外部顧客への売上高	27,112	10,891	2,631	40,635		40,635
セグメント間の内部売上高 又は振替高	256	3	579	839	839	
計	27,369	10,894	3,211	41,475	839	40,635
セグメント利益	3,525	431	185	4,142	1,615	2,526

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、病院のマネジメントサービス、事務用機器及び車両のリース、保険代理業及び海外事業等を含んでおります。
2. セグメント利益の調整額 1,615百万円には、セグメント間取引消去 3百万円、各報告セグメントに配賦していない全社費用 1,611百万円が含まれております。
3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

「フードグループ」セグメントにおいて、平成24年5月に蜂屋乳業株式会社を子会社化したことに伴い、404百万円のものれんを計上しております。

なお、のれんの当第1四半期連結累計期間の償却額及び当第1四半期連結会計期間末の残高は以下のとおりであります。

(単位:百万円)

	クリーンケア グループ	フード グループ	その他	全社・消去	合計
当第1四半期連結累計期間償却額	27	0	-		27
当第1四半期連結会計期間末残高(注)	204	404	-		608

- (注) 当第1四半期連結会計期間末残高の主な内容は、平成24年5月に取得した蜂屋乳業株式会社ののれん残高404百万円(フードグループ)、平成20年7月に取得した株式会社アミ・コーポレーション(現在は株式会社ダスキンサーヴ東北と統合)のものれん残高62百万円(クリーンケアグループ)と当社及び連結子会社が複数の加盟店から事業譲受した際に発生したものれん残高109百万円(クリーンケアグループ)等であります。

(重要な負のものれん発生益)

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	クリーンケア グループ	フード グループ	その他 (注1)	計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
売上高						
外部顧客への売上高	27,335	11,747	2,735	41,818		41,818
セグメント間の内部売上高又は振替高	248	2	697	949	949	
計	27,584	11,750	3,433	42,767	949	41,818
セグメント利益又は損失()	3,305	245	153	3,213	1,687	1,525

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、事務用機器及び車両のリース、保険代理業、病院のマネジメントサービス及び海外事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失()の調整額 1,687百万円には、セグメント間取引消去6百万円、各報告セグメントに配賦していない全社費用 1,694百万円が含まれております。

3. セグメント利益又は損失()は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

当第1四半期連結累計期間において、のれんの金額に重要な影響を及ぼす事象はありません。

なお、のれんの当第1四半期連結累計期間の償却額及び当第1四半期連結会計期間末の残高は以下のとおりであります。

(単位:百万円)

	クリーンケア グループ	フード グループ	その他	全社・消去	合計
当第1四半期連結累計期間償却額	44	20	-		65
当第1四半期連結会計期間末残高(注)	383	332	-		715

(注)当第1四半期連結会計期間末残高の主な内容は、当社及び連結子会社が複数の加盟店から事業譲受した際に発生したのれん残高366百万円(クリーンケアグループ)と平成24年5月に取得した蜂屋乳業株式会社ののれん残高323百万円(フードグループ)等であります。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

(企業結合等関係)

共通支配下の取引等

(ダスキン共益株式会社とダスキン保険サービス株式会社との合併)

1. 取引の概要

(1) 結合当事企業の名称及びその事業の内容

結合企業

名称 ダスキン共益株式会社

事業の内容 リース業

被結合企業

名称 ダスキン保険サービス株式会社

事業の内容 保険代理業

(2) 企業結合日

平成25年4月1日

(3) 企業結合の法的形式

ダスキン共益株式会社を存続会社、ダスキン保険サービス株式会社を消滅会社とする吸収合併

(4) 結合後企業の名称

ダスキン共益株式会社

(5) 取引の目的を含む取引の概要

ダスキン共益株式会社及びダスキン保険サービス株式会社は、当社企業グループ及びフランチャイズ加盟店向けのリース業、保険代理業をそれぞれ主業とする当社100%出資の連結子会社であります。

両社が合併することで、両社が保有する経営資源を効率的且つ有効活用できることから、当社グループ全体の競争力強化につながることを目的としております。なお、合併による資本金の増加はありません。

2. 実施した会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成20年12月26日)及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第10号 平成20年12月26日)に基づき、共通支配下の取引として処理しております。

(1 株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
1株当たり四半期純利益金額	14円75銭	18円27銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	948	1,150
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	948	1,150
普通株式の期中平均株式数(千株)	64,285	62,955

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式がないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年 8月12日

株式会社ダスキン
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 伊藤 嘉章

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 神前 泰洋

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ダスキンの平成25年4月1日から平成26年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成25年4月1日から平成25年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ダスキン及び連結子会社の平成25年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはX B R Lデータ自体は含まれていません。